

2018年4月1日

福音書からのメッセージ

婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。（マルコによる福音書 16章 8節）

今日の福音書には、三人の女性が登場します。マグダラの MARIA とヤコブの母 MARIA、そしてサロメの三人です。彼女たちの名前はイエス様が十字架の上で息を引き取る場面マルコ 15章 40節にも出てきます。

彼女たちはガリラヤからずっとイエス様と一緒に行動しながら、ついてきた女性たちです。イエス様が逮捕された後も、ゴルゴダへの道を歩んでいるときも、そして十字架につけられたあとも、ずっと近くで、そして遠くからイエス様を見つめていたわけです。

彼女たちは、イエス様と共に十字架の道行きを歩んできたと言えるでしょう。そのときにはイエス様の十字架の意味を考える余裕はなかったと思います。でもきっとイエス様の歩みは、まぶたに焼き付いていたのではないのでしょうか。

彼女たちは日曜の朝に、イエス様が葬られていたお墓に行きます。しかしそこで見たのは、長い衣を着た若者でした。肝心のイエス様はおられませんでした。彼女たちはその事実には震え上がり、正気を失いました。恐ろしくて誰にも何も言えませんでした。墓を出て、逃げ去りました。

復活の朝に起こった出来事、それは恐れ、戸惑い、恐怖でしかありませんでした。そこに「イースターおめでとう」という喜びの声は聞こえません。でもこれこそが、この福音書が伝えたかった、イエス様の復活なのです。

マルコによる福音書はもともとこの 16章 8節で終わっており、その後続く数節



は付け加えられたものだと考えられています。

つまりマルコ福音書では、イエス様が突然あらわれて声を掛けてくれることも、扉を閉めていたのに真ん中にあらわれることも、傷のあとに指を突っ込むように言われることも、二人で歩いていたら一緒に歩いてくれるということも、何も書かれていないのです。

イエス様は墓から消えました。しかしガリラヤで会えると言われます。ここが大切なところですよ。墓は死体が眠る場所です。ガリラヤは、生活の場です。つまりイエス様は、どこか特別な場所ではなく、わたしたちがいるところに、生きているところに、来てくださるのです。そして死にしばらくすることなく、わたしたちと共にいてくださいます。

イエス様の復活物語、それはその人その人にとって全く違う物語です。一人ひとりにとって、復活のイエス様との出会いは特別な出来事です。イエス様は墓からおられなくなりました。そしてわたしたちの元に来て下さる。それがイエス様の復活です。

イエス様の十字架そして復活は、わたしたちを生かすためになされた、神さまの愛の業なのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>